

自動化のステップで業務プロセスの変革を進めていきます。基幹情報のデジタル化で、工程・分野間の情報連携を飛躍的に進化させるとともに、各現場業務は、デジタル活用人材となった社員自らが業務を見つめ直し、デジタル基盤を使いこなして改善・改革することを目指します。

2024年度の重点的な取り組みとして、生成AIを適用することで業務の効率化とコスト削減を実現し、現場の余力・活力を創出します。中長期的には現場で生まれた余力・活力を活用し、総智・総力でデジタル変革を推進し、事業を支える全社の業務

プロセス変革を進め、組織力・競争力を高めることで持続可能な成長を目指します。

デンソーには、現場の課題を大きな視点で捉え、技術で解決していくことで、社会に価値を還元していく力が備わっています。デンソーが1994年に発表したQRコード®を例に見ても、現在世界中で人々の生活に浸透し、社会貢献を果たしています。デンソーの事業・組織にデジタルの力を実装することで、競争力を高め、さらに社会に価値を提供できる企業へと変革させていきます。

デジタル化による価値創造事例

業界を挙げて安全なIT環境をつくり上げる、情報セキュリティの取り組み

2021年度に相次いでサイバー攻撃を受けたことを省み、グループ全体でサイバー攻撃への対応を強化してきました。①機密情報の管理強化やAIによる不審メールの排除など多層防御環境の構築、②全社員に対するセキュリティ教育による意識向上、③グローバルガバナンスの徹底を通じて再発防止を図っています。今後も、先進IT技術を積極的に活用し、不審な攻撃を精度高く検知・防御するとともに、サイバー攻撃を想定した有事対応訓練を継続的にを行い、万全の備えをしていきます。また、サイバー攻撃に強いサプライチェーンを業界を挙げて築き上げるべく、安全なIT環境構築を目指す「自動車産業サイバーセキュリティガイドライン」に基づき、ステークホルダーの皆様と共に継続的なセキュリティ品質のレベルアップを図っていきます。



ITによる多層防御で
いつでもどこでも安全にIT環境を利用

リスクの増加

DX推進によるクラウド活用の増加 × 協業による社外ユーザーの増加

新価値創造に適した環境を構築する、デジタルワークプレイス・ITインフラの整備

グローバルのデンソーグループ全社員が、オフィスや工場の垣根なく、常時双方向につながるための「1人1台デジタルデバイス・M365」導入プロジェクトを2019年度から順次スタートし、時間・場所・デバイスの制約を受けない仕事環境を実現しました。この「いつでもどこでも誰とでも」つながるデバイス・コミュニケーションツールをベースに、2024年度は生成AIなどを活用した仕事・手続き自動化と、DX推進を目指しています。生成AIとデータドリブン開発の融合などAIをフル活用することで、誰もが平等にデジタルを活用し、創造的な業務ヘシフトして新価値創出に注力できるよう支援しています。



サステナビリティ経営の進化を支える、基幹業務のグローバル連携とデータ一元化

会社の基幹情報をグローバルに標準化・デジタル化し、連携することで、業務のスピードと質を飛躍的に高めることを目指しています。その取り組みの一つである経営基盤DXでは、財務情報と非財務情報を一元化し、経営状況をダッシュボードで可視化することで、課題抽出を支援し、グローバル視点での迅速な経営判断を実現します。事業企画業務プロセスの標準化・自動化を実現する事業損益管理システムの構築と主要拠点への導入を2024年内までに完了し、2025年にはAIや最適化の最新テクノロジーを活用し、シナリオ(環境変化)に応じた利益最大化のシミュレーションを可能にして、分析・意思決定の高度化を図ります。2025年以降には非財務情報を含むデータのシステム統合を実施し、サステナビリティ経営の進化を支えます。